

佐々木権六(長淳)略年譜

文政13年(1830) 9月3日、福井藩士・佐々木小左衛門(長恭)と仕奈の長男として福井城下に誕生。

嘉永2年(1849) 江戸で男谷精一郎の直心影流の剣術道場入門【資3】。

嘉永5年(1852) 神道無念流剣術との他流試合に出場【資4】。多寿と結婚。

嘉永7年(1854) 黒船に乗り込み艦上や武器を写生【資5】。大小銃并弾薬製造掛りに任命。

安政4年(1857) 製造方頭取に任命【資9・10】。ジョン万次郎に造船術の教を乞う【資6】。

安政6年(1859) 建造に携わった洋式帆船「一番丸」が進水【資7・8】。

文久2年(1862) 江戸藩邸でピラスビイデ独り車を組み立て【資11】。郡奉行に任命。八百と再婚。

文久3年(1863) 波止場築造を命じられ、家族と安島浦に移住、慶応元年には工事を一任【資12】。

元治元年(1864) 製造局頭取、ついで製造奉行に任命。

慶応3年(1867) 藩命により渡米【資13】。ジョンソン大統領らと面会し、武器などを購入【資14】。

明治2年(1869) 製造局廃止。権六から長淳に改名。

明治3年(1870) 制作場(元製造局)水車による西洋織物試験掛りに任命。

明治4年(1871) 廃藩置県、東京へ移住。新政府の工部省勸工寮に出仕。

明治5年(1872) 澳国博覧会一級事務官に任命【資15】。建築に携わった葵町製糸所が完成。

明治6年(1873) ウィーン万博参加のため渡欧。欧州諸国で養蚕・製糸・紡績の技術を調査。

明治7年(1874) 内務省勸業寮(後に勸農局)内藤新宿試験場で養蚕の試験研究に従事。

明治8年(1875) 遺族の依頼により橋本左内の肖像を描く。

明治9年(1876) ミラノ万国養蚕公会に出席。新町屑糸紡績所所長に任命(〜同10年)。

明治10年(1877) 試験場長に任命(〜同12年)【資16】。新町屑糸紡績所が開業。

明治12年(1879) 宮内省に転属、青山御所養蚕御用掛に任命【資17】。

明治16年(1883) 万年会会員となり、『万年会報告』誌上で「蚕事通信」を連載。

明治18年(1885) この頃から養蚕講話のため全国各地を巡回。

明治19年(1886) 非職。

明治20年(1887) この年から同22年にかけて養蚕の技術書『蚕務問答』全3冊を刊行【資18】。

明治23年(1890) 養蚕の啓蒙書『蚕の夢』を刊行。

明治42年(1909) 蚕の病気に関する書『微粒子病蚕之顛末』を刊行。

大正5年(1916) 1月25日、肺炎のため東京の自宅で死去。享年87。



肖像：上から順に
福井市立郷土歴史博物館蔵
『絹糸紡績と屑物整理』より
『佐々木忠次郎博士』より